10 障害児教育

伊藤　福男・木村　敦子・兼桝　　透

1．研究主題「個が生きる授業の評価」についてのうけとめ

これまで，本学級では「個が生きる授業」として次のように捉えてきている。

・一人一人に応じた適切な指導が行われる授業
・個と集団の関わり合いの中で学習が進む授業

このような「個が生きる授業」を構成するためには，

(1)　個別理解……障害の状態，発達の段階，興味・関心，生活経験，生活環境，対人関係といった多方面からの理解。

(2)　指導内容・方法……指導の個別性，教材・教具の選択と一人一人の課題の指導過程への位置づけ。

(3)　個を育てる集団……受容的な集団，個が刺激し合って活性化する集団。

(4)　望ましいコミュニケーション……指導者と児童，児童相互，指導者相互。

といった，４つの点を必要な条件として考えている。

これらの条件のもと，基本的に次のような学習過程の流れを展開してきた。

学習意欲の喚起 ― 学習課題の意識 ― 学習課題の解決 ― 学習課題の転移

ここで，「児童がその子なりの考えを持ち，よりよい方向を目指して進んで考え，判断し，表現する（行動する）ことを重視した学習活動」となっていくためには，児童，指導者間において次のようなことが必要であると思われる。

児　　童	指　　導　　者
・活動が個の実態に合っている。 ・活動の仕方がわかっている。 ・活動の見通しが持てる。	・活動を複数準備する。 ・適切な手だて（援助・言葉かけ・具体的な活動の指示・言葉による指示）がある。 ・安定した活動の流れを構成する。 （既習の学習との関連づけ）

「個が生きる授業（学習活動）」について評価していくにあたっては，以上のような点について児童側と指導者側の両面から検討していくこと（個が十分活動できていたか，目標行動は適切であったか，つまずき，ずれはどの点かなど）が考えられる。

2．個が生きる授業（学習活動）の論拠となる学力観について

本学級では，「生活力のある児童」の育成を目指してきている。「生活力のある児童」の姿として次の３つの力を描いている。

・ことばや行動で自己を十分に表現し，主体的に生活や学習をする力
・さまざまな集団やいろいろな人とのかかわり合いの中で，生活や学習をする力
・いろいろな場面で，判断したり，工夫したり，継続したりして生活や学習をする力

一人一人の児童が授業の場で身につけた力が，あらゆる生活の場でも発揮できる時，その力は確かな力としての生活力が身についたということができる。そのためには，学習したことを生かせる場を準備するとともに，授業（学習活動）においては，一人一人の児童が，活動の仕方がわかる，活動の見通しが持てる，といったことを考えていく必要がある。そして，学習したことをもとに，自分の生活の場で自分なりの見通しをたてて活動していくことのできるよう，学習の汎化を図っていくことが重要であると考えられる。

3．自己を高める評価力の育成について

自己を高める評価力を育成する要素には，「児童自身による評価」と「児童相互による評価」「指導者による評価」の3つが考えられる。そして「児童自身による評価」と「児童相互による評価」のあり方を考える時，本学級児童の場合，学習活動を児童自身がことばで話したり文字で書いて表現する前段階の自己評価のあり方を明らかにしていくことも重要なことと考える。

すなわち学習活動を何らかの形態で表現する前段階の児童が，学習の時，また学習ののちに自分の行動をどのように振り返っているか実態を明らかにすること，そして，一人一人の児童の行動の振り返りを活発にするためには，指導者の評価の仕方はどうあるべきかを考えていくことが大切であると考える。

これまでの取り組みから養護学級児童の自己評価の実態を次の5段階に考えた。

		児童の自己評価の実態	評価の具体例
行動や活動をイメージしにくい。	1	今の行動が何をしているのか，概念的にわかっていない。	1つの行動の確認，行動と言葉の一致を図る。例：走る＝走ったね（指導者の言葉）
	2	表現（話す，書く）の元になる力を育成している。	一連の活動と活動の部分的な行動と結びつける。例：カレー作り＝肉を買った。玉葱を切った。カレーを食べた。
行動や活動をイメージできる。何らかの手段で表現できる。	3	手がかりがあれば，その場で自分の活動を確認できる。	VTR，写真，具体物を見ながら自分の行動を振り返り表現している。
	4	学習のあと自分の活動を発表し，他児の発表が聞ける。	時間経過があっても写真や言葉かけで活動を振り返り表現している。
	5	他児と一緒に経験を話し合い学習活動を確認しあう。	他児の話も聞きながら自分自身の活動を振り返っている。

この児童の実態と指導者の手だてを踏まえて

様々な評価力の段階の児童に対して，それぞれの学習活動の中に具体的にどのような振り返りの場を設定していけばよいか。自己を高める評価力の育成のために本学級の児童に指導者は何をすればよいかを明らかにしたいと考えた。また，評価力の育成には，記憶力の発達，表現力の発達，社会性の発達，コミュニケーションの発達など多くのことが関係してくるので，それらの関連性も踏まえて各学級の児童にあった指導のあり方を明らかにしていきたいと考えた。